

福岡県森林林業技術センターの概要

福岡県森林林業技術センター 川端 良夫

1. 沿革・概要

(1) 沿革

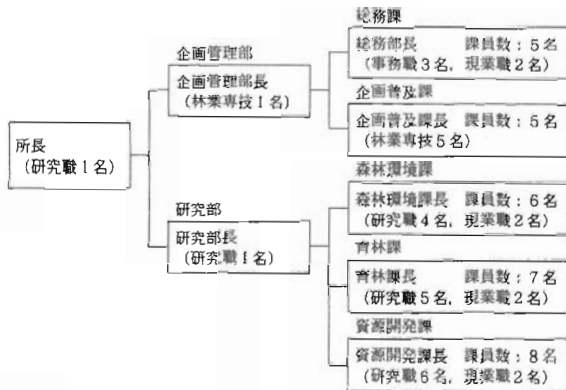
- 昭和13年 1月 「福岡県林業試験場」八女林業地域内の八女郡黒木町に設置が決定
- 14年 1月 「福岡県林業試験場」開場
- 29年 4月 庶務・造林・利用の3課を設置
- 30年 4月 小倉市（現北九州市小倉区）に「小倉分園」を開設
- 33年 4月 「小倉分園」を「小倉分場」に名称変更，本場より分立
- 36～37年 研究施設近代化事業により研究室，実験施設を新築整備
- 47年 6月 「北九州分場」（38年に北九州市発足に伴ない「小倉分場」を改称）を閉鎖
- 平成 2年 1月 久留米市への移転が決定
- 6年 9月 久留米市山本町に移転，組織改編し，「福岡県森林林業技術センター」として開所

(2) 概要

表-1に、当センター建築物の面積を示す。構内用地総面積は、約11.5haであり、そのうち2.2haの施設用地内に、総面積6,293㎡の建物が設置されている。また、構外には9カ所の各種試験林があり、合計で18.4haの面積である。

表-1 各建築物の名称、面積及び内容

名称	面積	内容
本館・研修棟	618	所長室、総務課、企画普及課、研修室（第1・第2）、会議室、ホール
研究棟	2,267	研究部室、実験室、分析室、情報処理室、電子顕微鏡室、標本室、図書室等
研修宿泊棟	689	研修室、宿泊室（13室）、食堂、ラウンジ、調理室、浴室
木材加工実験棟	576	木材加工室、強度実験室、データ分析室、接着実験室、木材理化学室、木材乾燥室
きのこ実験棟	208	作業室、調査室、無菌接種室、培養室、発生室
組織培養実験棟	200	試料調製室、無菌作業室、恒温室
温室・ガラス室	623	温室（生態、病理、タケノコ、育種）、ガラス室（生態、育種）、馴化室、人工気象室
研修用機械庫	280	機械庫、作業室
林業機械庫	492	林業機械庫、農具倉庫、肥料庫、種子庫、車庫、作業室、作業管理室
昆虫飼育棟	123	昆虫飼育室、昆虫観察室
鳥獣観察棟	64	鳥獣観察室、管理室、動物用ゲージ
その他	153	堆肥舎、ボイラー室、危険物倉庫、野外便所等
合計	6,293	



総員34名（事務職3名、林業専門技術員6名、研究職17名、現業職8名）

図-1 福岡県森林林業技術センター組織図 (平成9年6月1日現在)

2. 組織及び人員構成

図-1に、当センターの組織図を示す。2部5課体制で、総員34名の職員が配置されている。このうち所長を含む17名が、研究職員である。

企画総務部は2課からなり、総務課は、庶務・会計全般・財務管理を、企画普及課は、林業技術の普及指導及び研修、森林に関する啓発普及、研究・技術情報の調査広報を業務としている。

研究部は3課からなり、森林環境課は、森林の公益的機能、緑化、樹木生理、森林防災、林業経営に関する研究を、育林課は、造林・育林技術、林木の遺伝育種技術、森林の保護技術に関する研究を、資源開発課は、竹・たけのこ、食用きのこ等特用林産物生産技術、木材の高度利用技術に関する研究を事務としている。

3. 研究課題と研究内容及び研究者名

表-2に、平成8年度的全42試験課題のうちから抜粋した15の課題について、研究課

題、研究内容、実施機関及び担当研究者を示した。研究課題は、7つの部門に大別されており、造林部門と特用林産部門は部門内に複数の中課題を設けている。基本的には、各中課題に1名の研究員が担当である場合が多いが、林産加工部門や特用林産部門のきこ関連の課題、造林部門の遺伝育種関連課題では、複数体制で研究を行っている。また、各研究員の専門分野に跨っている様な課題に対しては、部門や配置されている課を越えて数名の研究員で研究を行っている。

おわりに

移転後すでに2年以上が経過しましたが、構内の樹木園は、まだまだ林と呼べるほどの景観にはなっておりません。整備拡充された施設での研究業務も、これから真価が問われる時期と言えるでしょう。この様な中で、森林環境や林業の諸問題に対して、周囲の期待に答えられる様、全職員が力を合わせて業務を遂行しています。今後とも、他研究機関の皆様と協力しあって、森林・林業の研究の発展に参画していきたいと思っております。

表-2 研究課題、研究内容及び担当研究者 (H8年度実施課題からの抜粋)

部門	研究課題名	研究内容	実施期間	研究者名
林業経営	1. 林業経営の近代化 (1) 林産物の需要構造及び流通システムに関する研究 他1課題	市場や製材加工所の木材流通特性を分析把握し林業経営の合理化を図る。	H 6-	福島 敏彦
	1. 森林の多目的利用の基礎調査 (1) 新たな緑化木開発 他3課題	樹種毎の有用特性の変異を調べ、選抜の可能性を検討し、器官培養法等を用いた簡単な大量増殖法を探索する。	H 6-H10	猪上 信義
造 林	2. 林業生産性の向上 (1) リモートセンシングデータと林相に関する研究 他3課題	ランドサットデータ等を利用した、森林の広域管理のための技術の開発を行う。	H 6-H10	高木 潤治
	3. 生活環境のための緑化技術 (1) 葉による乾性降水物の捕捉に関する研究 他2課題	大気汚染物質と樹木との、吸着や相互作用を調査し、樹木・森林の公益的機能評価の基礎資料とする。	H 6-H10	佐々木重行
	4. 森林の公益的機能の維持増進 (1) 立地条件と樹木の対応に関する研究 他2課題	樹木の移植に対する生理反応を調べ、造林・緑化木の移植技術の向上を図る。	H 6-H10	佐々木重行
	5. バイテク技術の林木への応用 (1) 有用林木遺伝資源植物のバイテクによる保存と増殖技術の開発 他1課題	従来の技術では増殖困難な有用林木や天然記念物等の貴重な樹木を、組織培養技術によって増殖・保存する技術を確立する。	H 8-H15	宮原 文彦 後藤 晋
	1. 森林の保護管理技術の向上 (1) 主要材質劣化被害の被害実態の解明と被害回避法の確立 (2) スギ・ヒノキ人工林におけるキバチ類の被害実態の把握と防除対策に関する基礎調査 (3) 野生鳥獣に係わる森林被害防除法の開発並びに生息数推移予測モデル確立のための基礎調査	主要林木の材質劣化に関する菌類の探索と劣化症状・発生環境・誘因等を調査する。 キバチ類の発生、消長や林木の被害状況等を明らかにし、被害防止技術の検討を行う。 シカによる造林木被害を軽減させるために、被害防除法の開発を進めるとともに、生息数管理のための生息数調査法の確立及び年齢構成等の把握による生息数の将来予測技術の開発を行う。	H 6-H 8 H 9-H10 H 8-BJ1	小河 誠司 大長光 純 池田 浩一
森林防災	1. 森林の防災技術の確立 (2) 風害発生危険地域の判定及び風害に抵抗力のある森林施業手法の解明 他3課題	風害の被害規模と森林にかかわる各種要因を調査検討し、風害発生危険度の判定技術を確立し、風害に抵抗力のある森林施業方法を解明する。	H 7-H 9	野田 亮 高木 潤治
林業機械	1. 森林作業の合理化と安全性 (1) 地域に適合した林業機械作業システム研究	高性能機械を主体とした新しい伐出システムを確立するために、各種機械の作業適応条件調査、路網と伐出システム解明、作業マニュアル作成を行う。	H 4-H 8	高木 潤治 森本 宏
木材加工	1. 加工技術の高度化 (1) 産材の材質特性の解明 他7課題	色々な立地環境での品種の成長特性を調査し、外部・内部形態の材質と木材強度を把握する。	H 6-W10	村上 英入 古部 達也 片桐 幸彦
特用林産	1. 竹資源の高度利用 (1) 土壌改良等施業改善による高品質たけのこ生産技術の開発 他2課題	客土、填圧、給水等の土壌改良とタケノコの品質、形状との相関を把握するための調査・試験を行う。	H 6-W10	野中 重之
	2. 菌類の多目的利用技術の確立 (1) 食用キノコ類の新品種開発 他2課題	有用きのこ類の新品種開発を目的とした試験・研究を行う。	H 6-BJ0	金子 周平 川端 良夫
	3. バイテク技術のきのこ類への利用 (1) ニュータイプきのこ資源の利用と生産技術の開発	染色材料として価値のあるきのこの人工培養方法を検討する	H 8-H15	金子 周平 川端 良夫